

パワーポ使いこなし術 〈書体・文字組〉

田中佐代子

新連載スタート!

研究発表のビジュアル化が進んでいます。さらに学会発表スライド、学会発表ポスター、論文や報告書のイラストなど、科学者自身が作成する機会が増えています。そして研究者のアウトリーチ活動の義務化も進んでいます。

でもデザインやイラストはちょっと苦手…それに実験や論文執筆で忙しいから、デザインやイラストにあまり時間かけられない…という科学者の方方も多いと思います。

そんなみなさまのために、実践的な内容を毎月掲載したいと思います! パワーポイント(以下、パワポ)等を使って、研究関連のビジュアル資料を作成する際に役立つはずで、予定している各月のテーマは以下のとおりです(全12回)。

- 4月号 パワポ使いこなし術 〈書体・文字組〉
- 5月号 パワポ使いこなし術 〈配色〉
- 6月号 パワポ使いこなし術 〈図形 その1〉
- 7月号 パワポ使いこなし術 〈図形 その2〉
- 8月号 パワポ使いこなし術 〈グラフ・表・チャート〉
- 9月号 パワポ使いこなし術 〈画面構成〉
- 10月号 Before-Afterによる事例 その1
- 11月号 Before-Afterによる事例 その2
- 12月号 Before-Afterによる事例 その3
- 1月号 アウトソーシング事始め
- 2月号 著作権
- 3月号 一般向けサイエンスイラストの描き方

著者紹介

筑波大学でビジュアルデザインの教育・研究を専門に行っています。

略歴: 1991年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。1993年~民間会社にグラフィックデザイナーとして勤務。2008年~現職。2010年~日本サイエンスビジュアルリゼーション研究会(JSSV)代表。



日本サイエンスビジュアルリゼーション研究会
<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~jssv/>

なぜ書体・文字組が重要?

ビジュアルデザインにおいて、書体と文字組はもっとも基本的な要素だからです。文字が適切に扱われているか否かによって、そのデザインのレベルが決まるとも言われています。

オススメ書体

和文はゴシック体と明朝体、英文はサンセリフ体とローマン体がオススメです。基本的にはくせのない書体の選択がポイントです。ゴシック体は線が一定な太さの書体のことで、明朝体は横の線が細く縦の線が太い書体です。サンセリフ体はセリフ(先端の小さなヒゲ)がない書体で、ローマン体(セリフ体)はセリフがある書体です。



ゴシック体

ヒラギノ角ゴ
平成角ゴ
小塚ゴシック
メイリオ

サンセリフ体

Helvetica
Myriad
Arial

明朝体

ヒラギノ明朝
平成明朝体
小塚明朝
HGP明朝E

ローマン体(セリフ体)

Garamond
Palatino
Times New Roman

オススメしない書体

特徴的な書体はおすすめしません。その書体のデザイン自体がだめというわけではなく、特徴的な書体ほど、使用する場所が限定されるからです。サイエンスに関わる多くのデザインの場合、和文はゴシック体と明朝体、欧文はサンセリフ体とローマン体（セリフ体）でほとんどの場合、コト足りるはずですが、

また和文書体に含まれる英数字を全角で使用すると、間が抜けた感じになるので、それもなるべく控えましょう。

特徴的な書体は×

ポップ体 行書体 勘亭流

正楷書体 隷書体

Comic Sans Brush Script

全角の英数字は×

MS Gothic 2013

文字の装飾・変形は控える

袋文字（縁取り文字・輪郭だけの文字）、陰、ぼかし、変形など、様々に装飾ができる機能がパワーポにはあります。しかしこのように文字を装飾・変形することで、読みにくくなるだけでなく、フォントデザイナーによってデザインされた、元々の文字の美しさが損なわれてしまいます。特に英文書体は、あらかじめデザインされたイタリック体などがありますので、それを使うほうがよいです。

サイエンスビジュアル ×
SCIENCE VISUAL ×

文字の変形 × **文字の変形** ×

Quality ○ **Quality** ×

英文書体のイタリック体

英文書体の変形書体

行間は狭くしすぎない

行間は文字サイズの1.5倍前後が適切です。たとえば8 pointの文字なら行間は12ポイント前後が適切です。くれぐれも狭くしすぎないように注意しましょう。

*パワーポでは行間を設定する際、「倍数」と「固定値」が選べますが、「固定値」のほうが正確です。「倍数」はなぜか広めの行間になるので注意が必要です。

私たちはそれに感動した。より中立的だったからだ。私たちは中立という言葉を楽しみ中立を辛抱した。書体に意味があってはならない。意味は文言にあるべきで、書体に含むべきじゃない。だからHelveticaを楽しんだ。（ウィム・クロウエル、映画「ヘルベチカ」より）

狭すぎる行間：文字サイズ8ポイント、行間8ポイント

私たちはそれに感動した。より中立的だったからだ。私たちは中立という言葉を楽しみ中立を辛抱した。書体に意味があってはならない。意味は文言にあるべきで、書体に含むべきじゃない。だからHelveticaを楽しんだ。（ウィム・クロウエル、映画「ヘルベチカ」より）

適切な行間：文字サイズ8ポイント、行間12ポイント

スライド：よい例・わるい例

効果的なスライドの文字組

- 発表スライドは「読む」より「見る」媒体
・簡潔な表現が求められる
・長々とした文章は避ける
- ゴシック体やサンセリフ体を推奨
・和文：見出しは太ゴシック体
本文は細めのゴシック体
・欧文：見出しはサンセリフ体のボールド
本文はサンセリフ体のレギュラー

わるい例：タイトル文字が装飾的で読み取りにくい、全体に行間が狭い、ポップ体を使用しているため読み取りにくく煩雑な印象。

効果的なスライドの文字組

- 発表スライドは「読む」より「見る」媒体
・簡潔な表現が求められる
・長々とした文章は避ける
- ゴシック体やサンセリフ体を推奨
・和文：見出しは太ゴシック体
本文は細めのゴシック体
・欧文：見出しはサンセリフ体のボールド
本文はサンセリフ体のレギュラー

よい例：ゴシック体を使用し、適切な行間があるため読み取りやすい

まとめ：書体や文字組へのちょっとした配慮で、わかりやすく、センス良いビジュアル資料になるはずですが、今回は配色について解説します。お楽しみに！